

かがやけ東泉の子



台東区立東泉小学校

校長 片寄 玲子

2月号

令和8年1月29日発行



かがやけ みんなのアンソロジー

～もうすぐ進級・進学！最後の一文は？～



校長 片寄 玲子

なにかわくわくするような本はないかと大きな書店を歩き回っていた時のこと。ふと、書店員さんが定期的に特集を組んでいるらしい「アンソロジー」の棚を見つけました。アンソロジーとは、ある決められたテーマに沿って、複数の作家が物語を書いてひとつにまとめたものです。1冊手に取り、買ってみました。

全員が、「これが最後の仕事になる」という一文で始まる小説を書いています。「これが最後の仕事になる」という言葉から連想されるのは、様々な職種の主人公。その、最後になる『仕事』は、スパイだったり泥棒だったり、サラリーマンの真面目な勤めだったり。年代設定も、国も、登場人物が人間かどうかも、すべて異なる、別の作家が書いた短編小説がそろっています。好みに合わないもの、面白いと思えないものもありましたが、この企画自体が、とてもすごいと思いました。これは、講談社から発刊されており、もともとは、とある会員制の読書俱楽部が配信して始まったものなのだそうです。シリーズになっていて、ほかの本の最初の一文は次の通りです。

『黒猫を飼い始めた』『だから捨ててと言ったのに』『新しい法律ができた』『それはそれはよく燃えた』

『嘘をついたのは、初めてだった』

思わず、自分でもなにか書いてみたくなりますね。おすすめです。暇つぶしにでもぜひやってみてください。

同じ棚からあと2冊、ちがう趣向のアンソロジー本を買いました。地図まで描かれた空想上の街を舞台にいろいろなタイプの作家がその街で起こるできごとを小説にしているもの。非日常を求める旅をテーマにしたもの。小説の楽しみ方、与え方にも、いろいろあるのだな、とあらためて本の魅力を感じました。

さて、このことを東泉小学校の子供たちに置き換えてみましょう。

4月の初めには、そろって入学・進学しました。物語の書き出しの一文は、「東泉小学校に入学した」「いよいよ東泉小学校の○年生だ」といったところでしょうか。

その後は、同じ教室で同じ学習をしていても、行うこと、考えること、その結果やその後は一人一人ちがいます。何に重点を置いて毎日が進んでいくかということもみんなそれぞれです。一人一人の、世界につただけの物語が続いていきます。

そして、学年の終わり、小学校生活の終わりに近づいていきます。進級に向けて、卒業に向けて、最後にどんなできごとが待っているのでしょうか。どんな一文で物語はいったん終わるのでしょうか。

そう考えると、小学校生活・・・いや、人生まるごとアンソロジーになり得ます。一人の人生だけでも、またみんなの歩みを集めて、素敵なお話がたくさん集まりますね。

道徳授業地区公開講座を終え、学校行事も残すところ卒業関連のもののみとなりました。学校評価の皆様からのお言葉を胸に、『終わりよければ すべてよし』。「ああ、楽しかった！」と学校の一年間を終えることができるよう、子供たちと一緒によりよい学校生活を目指します。

2月の目標

- 生活目標： 心をこめてあいさつをしよう。
- 保健目標： 心の健康について考えよう。
- 給食目標： ていねいに食器を扱おう。

東泉小学校ホームページ

<http://www.taitocity.net/tousen-es/>



2月の予定